

2025年4月29日 5:00

「TSMC城下町」熊本 半導体復興の足音 投資が投資呼ぶ

AI戦国時代④歩くヴェリタス 九州・熊本編[歩くヴェリタス](#) [ポートフォリオ](#) [トップストーリー](#)

[富士フイルムエレクトロニクスマテリアルズの拠点にあるウエハー用研磨剤の検査工程](#)

半導体受託生産の世界最大手、台湾積体回路製造（TSMC）の進出を機に、各地で半導体のサプライチェーン（供給網）の再構築が進む。半導体のグローバル競争に負けて衰退の一途をたどった日本では九州・熊本から再興ののろしが上がる。進出企業で株価が倍以上になる「バガー銘柄」も生まれている。活況の現場を歩いてみた。

2月下旬、TSMCが日本初の巨大工場を構えた熊本県菊陽町を訪れた。24年末に量産を始めた第1工場の東側では、柵で覆われた巨大な更地が広がり、土地の造成工事を進める様子が見てとれた。敷地面積は東京ドーム7個分となる32万平方メートルで、第1工場の1.5倍に及ぶ。ここが第2工場の建設予定地だ。



[TSMC熊本第2工場の建設予定地](#)

TSMCは第2工場で国内最先端となる回路線幅6ナノ（ナノは10億分の1）メートルの半導体を生産する。両工場へは計200億ドル（3兆円）の巨費を投じる計画だ。

午前8時過ぎ、TSMCの工場周辺を歩いてみると菊陽町では車が長蛇をなしていた。目的地の多くは県内の半導体関連企業だ。近隣企業に勤める50代の男性は「TSMCが誘致されてから、このあたりはすっかり変わった」と話す。全国や海外から人が移り住み、周辺では建設中の住宅の看板が雨後のたけのこのように並んでいる。

熊本への経済効果は10年間で11兆円超——。[九州フィナンシャルグループ](#)は24年9月、31年までの試算を見直し、1年前の予想額から6割増やした。TSMCの第2工場建設や新規投資が相次ぎ明らかになったためだ。山口・沖縄両県を含む九州経済圏全体では30年まで10年間で23兆円の経済効果があると、九州経済調査協会はみる。



[東京エレクトロン九州が建設中の研究開発施設](#)

TSMCの第1工場から車で5分ほどの場所にある[東京エレクトロン](#)の生産子会社、東京エレクトロン九州（熊本県合志市）。今夏に研究開発棟の完成を予定する。投資額は約430億円を見込む。新設する研究開発棟とともに、既存工場棟とをつなぐ連絡橋も建設中で、橋の下は車が通れるようになっていた。半導体製造に使う洗浄装置などの需要が増えるなか、装置の開発やデモをより効率的に進める狙いがある。

東京エレクトロン九州の林伸一社長は、近隣にTSMCがあるメリットのひとつに「供給網（サプライチェーン）の充実」を挙げる。近隣に半導体関連企業の進出が増えており、材料メーカーやサプライヤーとの距離は近づきつつあるとする。

TSMCと同じ菊陽町に構える富士フイルムエレクトロニクスマテリアルズの熊本拠点。入り口の警備員室をってから工場まで10分以上をかけてようやくたどり着いた。TSMCの第1工場に負けず劣らずの巨大工場だ。同工場は1月、半導体ウエハーの研磨剤の生産能力を3割増強したばかりだ。米国、韓国、台湾にも研磨剤工場を持つが、国内客からの引き合いが強まるとみて熊本拠点の増強を決めた。

同社の川島敦取締役・常務執行役員は「熊本では県や町を挙げての支援が手厚く、半導体投資の加速は、同県の協力も大きかった」と話す。熊本には顧客も多く、迅速な供給が図れるほか、高純度な水が欠かせない研磨剤の生産においては、原水が豊富というメリットもあったという。

日本製半導体が世界を席卷した1980年代。工場が集積した九州は「シリコンアイランド」と呼ばれていた。一時は世界の半導体の1割を九州で製造するほどだった。だが世界で進んだ半導体生産の水平分業の流れについていけず、2010年代には東芝や[テキサス・インスツルメンツ](#)日本法人の工場が閉鎖に追い込まれるなどした。

入れ替わるように復活の素地を作ったのは[ソニーグループ](#)だ。10年代から普及したスマートフォン向けイメージセンサーの需要を捉え、生産拠点を九州で増強してきた。九州におけるIC（集積回路）の生産額は24年に1兆3000億円と、過去最大だった2000年に並ぶ水準だ。大底の13年からは2倍以上に持ち直した。

数量ベースでは減少傾向が続くなかでの大台回復は、かつて多かった家電など民生品向けから、単価の高い高付加価値品へのシフトが進んだことを意味する。

九州に引き寄せられるのは大手だけでない。時価総額で中小型の企業も同じだ。

[クラボウは熊本事業所に新棟を設け、半導体製造装置向け高機能樹脂加工品の生産能力を倍増させた（熊本県菊池市）](#)

3年前に比べて株価が3倍になった[クラボウ](#)（3106）は追い風を受ける中小型株の代表格だ。半導体製造装置や薬液製造装置で使うフッ素樹脂製チューブといった高機能樹脂製品を手がける。グループ内外の企業と連携して顧客ニーズに応える力が評価され、祖業の繊維事業が縮むなか業績を伸ばしてきた。

3月末には菊池市の工場新棟が完成した。「世界の半導体市場は30年までに倍増すると見込まれ、それにも応えられる」と馬場紀生・化成品事業部長は強調する。製造現場の清浄度を引き上げ、環境規制の強化も見据えて対応できるようにする。

日はまた南から昇る——。SMBC日興証券は23年、こう題し、複数のセクターアナリストが共同で九州にフォーカスする投資リポートを発表。24年には続編を出した。

24年秋に欧米機関投資家を訪問した同証券の桂竜輔氏は「日本株全般への関心度合いはやや低下した印象だが、幅広い切り口で注目できる日本株を紹介するこうしたリポートも参考にして、より深い調査を行う投資家はもう一段増えていた」とする。

九州への投資が盛り上がるにつれ、浮き彫りになる課題もある。人材確保の難しさだ。実際、「人材の獲得競争は非常に激しく、生産能力を引き上げていく時の不安定要素として意識している」（クラブウの馬場氏）との声は多い。

[取材に応じる東京エレクトロン九州の林伸一社長](#)

東京エレクトロン九州の林氏は「全国的にソフトウェア人材が足りない」と明かす。3月末には、福岡市内に半導体製造装置向けの最先端ソフトを開発するオフィスを開いた。福岡への拠点開設の理由を「ソフトビジネスが盛んな福岡ではソフト関連のエンジニアの母集団が多く、合志市の工場からも近いためだ」と説明する。

「100年に一度の大チャンスといえるほど半導体企業が熊本に集積しているのに、関連企業に就職する技術職は少ない」と話すのは、熊本県立大学の黒田忠広理事長だ。半導体メーカーに就職する新卒技術系に占める女性は国内で10%程度と、TSMC（20%程度）に及ばないという。

「TSMCの第3工場を誘致を実現するためにも、育成は急務だ」とする黒田氏。熊本県立大は世界中から半導体や熊本に関心を持つ学生を集めるべく韓国や中国から教師を招き、理系人材の教育に力を入れている。

新たなマネーの流入を機に「シリコンアイランド」の名は輝きを取り戻しつつある。

（今堀祥和、井沢ひとみ、坂部能生）

記事・写真等を許可なく複製・転載することはできません。

記事の閲覧には日経ヴェリタスの会員登録が必要です。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。